

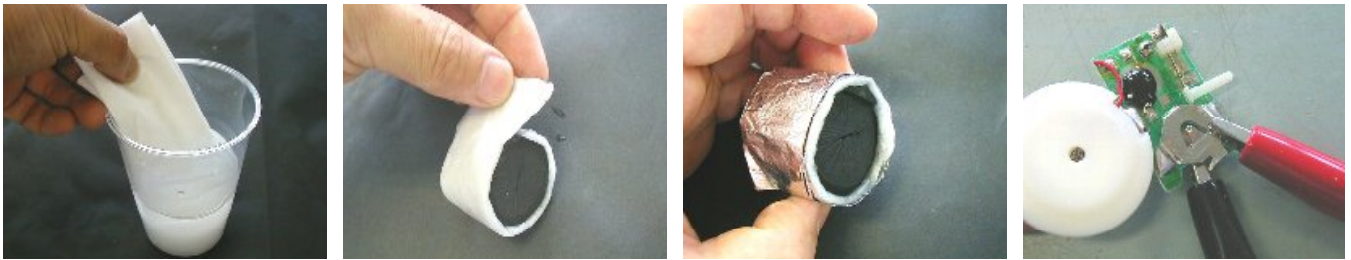
# 備長炭電池をつくってみよう

## 準備

食塩、水、キッチンペーパー（ティッシュペーパーでもよい）、アルミホイル、2本の導線（電気を通す線）、備長炭（どんな長さ、太さでもよい）、電子メロディー（模型店で購入できます。メロディー電報やカードの中の音の出る部品を取り出してもできます）。

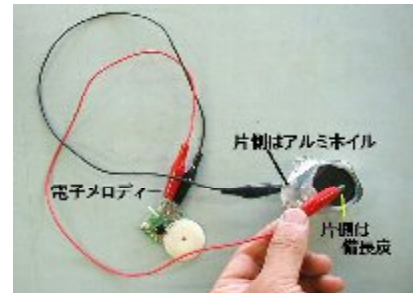
## 実験装置のつくり方

- 1 濃い食塩水に備長炭の幅に切ったキッチンペーパーをひたします。
- 2 1の食塩水をついたキッチンペーパーを備長炭に巻き付けます。
- 3 キッチンペーパーの外側に、備長炭の幅より狭く切ったアルミホイルを巻きます。
- 4 電子メロディーの電池につなぐ部分に導線をつけます。



## 実験の方法

- 1 導線の片側をアルミホイル、もう一方を備長炭につなげます。
  - 2 音が鳴らないときはアルミホイルと備長炭の線を逆にしてみます。
- \* ならない場合は、アルミホイルと備長炭がくっついていたり、線がはずれていることなどが考えられます。



## 情報

この実験では、備長炭電池では約1Vで0.15Aになりました。電子メロディーを光電池モーターにつなげると、プロペラを回すことができます。しかし、発生する電流が小さいため、一般には普通の電池のモーターは動かず、豆電球も点灯しません。普通の木炭は、備長炭に比べてつくりが異なるため電池には不向きです。

